

令和 6 年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

①協議会について

1. 構成員

全員で 18 人

内訳：県学校医会（小児科）1 人、がん専門医（乳腺外科）1 人、がん患者連絡協議会 1 人、県連合小
学校長会 1 人、県中学校長会 1 人、県高等学校長会 1 人、県学校保健主事研究会 1 人、県養護教諭
研究会 1 人、モデル校担当教員 3 人、健康局健康推進課 2 人、学校教育局教育支援課 5 人（事務局
2 人含む）

2. 開催時期、検討内容

【第 1 回協議会】

・日 程：令和 6 年 7 月 24 日

・内 容：和歌山県がん教育総合支援事業及び今年度の取組概要の説明を行った。また、外部講師を
活用したがん教育を推進する上での課題並びに取組について協議した。さらに、外部講師登録
リスト（県医師会用）や打合せシートの記載内容について検討した。

【第 2 回協議会】

・日 程：令和 7 年 1 月 23 日

・内 容：令和 6 年度の事業内容について報告するとともに、事業内容等に関する評価を行った。各委
員からは、それぞれの立場による意見をいただくとともに、本事業の充実を図るため、外部
講師のリストに関わることや次年度の計画、小学生向けのスライド資料、ホームページの活
用等について協議した。

②教育委員会としての取組

○普及・啓発

【研修会】

教職員及び外部講師等を対象に本県におけるがんの状況並びにがん教育の実施状況、がん教育に関す
る法的根拠、学習指導要領との関連、外部講師依頼時の留意点、モデル校での実践について説明を行っ
た。

また、和歌山県がん患者連絡協議会長が「がん患者の『がんと共に生きる社会』38 年前と時代の変
化」をテーマに講演を実施した。さらに、第 2 回研修会では、外部講師を活用したがん教育の模擬授業
を実施し、授業の進め方の理解を図った。

実施時期	実施内容	対 象	備 考
10 月 11 日	がん教育研修会（説明①、説明②、講演）	教職員・外部講師等	参加者 29 名
1 月 17 日	がん教育研修会（説明①、説明②、模擬授業、講演）	教職員・外部講師等	参加者 15 名

・説明① 演題：「本県のがんの状況について」

和歌山県福祉保健部健康局健康推進課がん・疾病対策班 主査 吉村 浩信 氏

・説明② 演題：「がん教育について」

和歌山県教育庁学校教育局教育支援課健康教育・食育班 指導主事 田代 裕人

- ・講演 演題：「がん患者の『がんと共に生きる社会』 38年前と時代の変化」

講師：和歌山県がん患者連絡協議会 会長 岡本 久子 氏

※第2回研修会では、講演に加え、外部講師を活用したがん教育模擬授業を実施した。

【外部講師リスト】

県医師会と連携し更新した外部講師リストを、該当する各市町村教育委員会及び各公立学校へ周知した。

【ホームページの活用】

外部講師を活用したがん教育の打合せシート、講師依頼文書並びに保護者に対するがん教育周知文書の例文等を県教育委員会教育支援課ホームページに掲載した。

③地域の専門機関や福祉保健部局との連携

【和歌山県医師会との連携】

和歌山県医師会に外部講師リスト更新の協力を依頼し、78名がリストに登録した。

【健康推進課との連携】

県内3か所のがん診療連携推進病院に外部講師としての協力依頼を実施した。さらに、小学生向けのがんに関するクイズを連携し作成した。

(2) 外部講師を活用したがん教育の授業

校 名：かつらぎ町立妙寺小学校・大谷小学校

校種・学年：小学校6年生

授業時数：1時間

実施科目：特別の教科 道徳

授業内容：外部講師から、がんになり患したときの気持ちや大変だったこと、家族のサポートでうれしかったことなどを話していただいた。その後、グループで「自分の大切な人ががんになったとき、どのように接するか」をテーマに話し合った。

校 名：田辺市立上秋津中学校

校種・学年：中学校2年生

授業時数：1時間

実施科目：特別活動「学級活動」

授業内容：担任から、前時の学習の復習後、外部講師から「がんの治療法」及び「がん患者への理解と共生」をテーマに講義を行った。その後、グループで「がん患者を支える家族としての接し方」をテーマに話し合った。

校 名：和歌山県立南部高等学校

校種・学年：高等学校2年生

授業時数：1時間

実施科目：保健体育科・科目保健

授業内容：外部講師から「日本におけるがんの状況」及び「がんの予防」について講義を行った。その後、生徒同士で予防法について話し合い、自分たちができることを考えた。

(3) その他

- ・近隣の学校に対して、公開可能な学校のモデル授業の周知を行った。また、授業参観後、意見交換会を実施し、外部講師を活用したがん教育の推進を図った。(参加者総数22名)

2 事業の達成度について

【がん教育研修会の取組について】

研修会については、管理職に参加を呼びかけ、昨年度より管理職の参加者が増加した。さらに、他団体や行政機関等にも参加を呼びかけた結果、学校関係者だけではなく、がん患者や市町村の関係者、保健師等に拡がりが見られた。

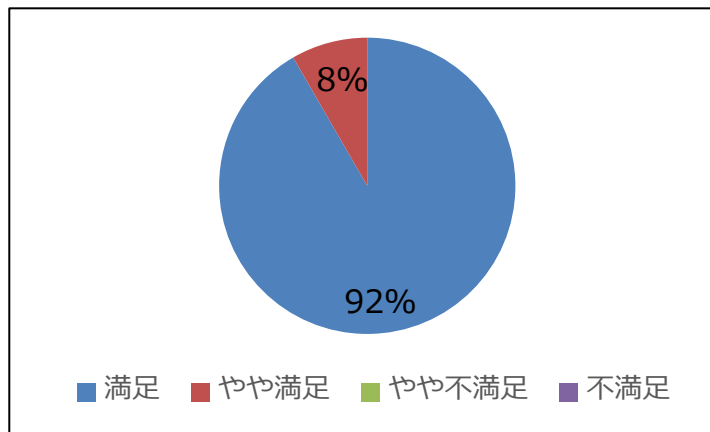
また、外部講師を活用したがん教育を計画的・継続的に取り組むために、学校保健計画に位置付けることが重要と説明した結果、参加者の感想に「学校保健計画に位置付け、取り組んでいきたい」という前向きな意見があった。

さらに、外部講師を活用したがん教育模擬授業を実施したことにより、模擬授業の参加者の感想も肯定的な意見ばかりであった。

○模擬授業感想（参加者より）

- ・今回は実際の模擬授業を体験するという参加型の研修ができ、実際の授業の感じがイメージできてとても良かった。
- ・がん教育の重要性を学ぶとともに、実際に生徒役になって模擬授業を受けられたことは非常によい勉強となった。
- ・模擬授業では、外部講師の体験を聞かせていただき、児童の立場から話し合うことができよかった。

○模擬授業アンケート結果



【外部講師を活用したがん教育モデル授業の取組について】

外部講師を活用したがん教育の進め方や授業展開等を理解してもらうために、モデル校の授業を近隣の学校に公開した。さらに、外部講師と授業担当者、参加者で意見交換会を実施し、外部講師を活用したがん教育の推進を図ることができた。

【福祉保健部局との連携について】

健康推進課と連携し、小学生向けのがんに関するクイズを作成した。そのクイズを、県教育委員会教育支援課のホームページに掲載し、活用を促した。

【外部講師活用の推進に向けた取組について】

和歌山県医師会と連携し、外部講師のリストを更新した。そのリストは、該当する各市町村教育委員会及び各公立学校に周知した。

また、健康推進課と連携を図り、県内3か所のがん診療推進病院に外部講師としての協力依頼を行った。

さらに、県教育委員会教育支援課ホームページに外部講師を活用したがん教育打合せシートや外部講師への依頼文書、保護者への周知文書の例文等を掲載した。

【モデル校における評価について】

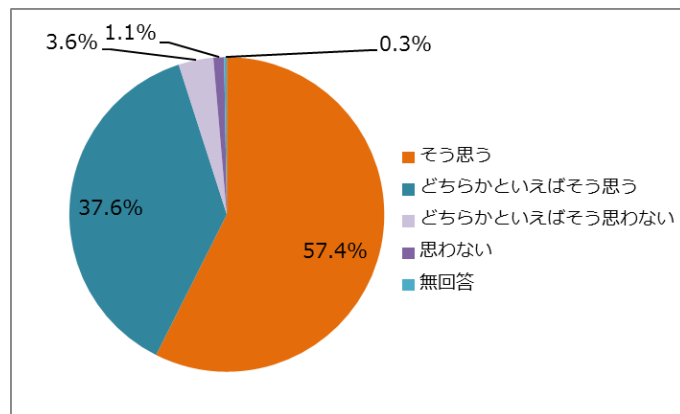
外部講師を活用したがん教育の授業内容は学校が主体となり計画する。学校側が計画しやすいように、「打合わせシート」活用している。作成した「打合せシート」を活用し、事前打合せを行うことで効率的に行うことができた。また、学校側の負担軽減につながるという意見もあった。

そして、がん教育は健康教育の一環として実施していることから、事前事後アンケートの項目のうち、「日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」を比較したところ、健康に関する意識が高まった。(図1参照)

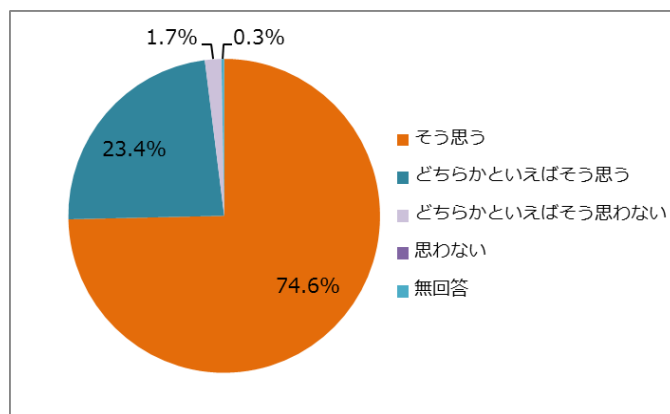
さらに、和歌山県においてはがん検診受診率が低いことを踏まえ、事前事後アンケートの項目のうち、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」について比較したところ、受けようと思う児童生徒の割合が増えた。(図2参照)

○日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う (図1)

【実施前】

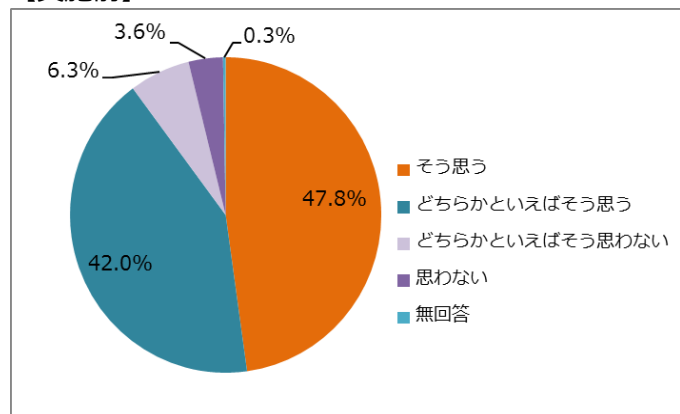


【実施後】

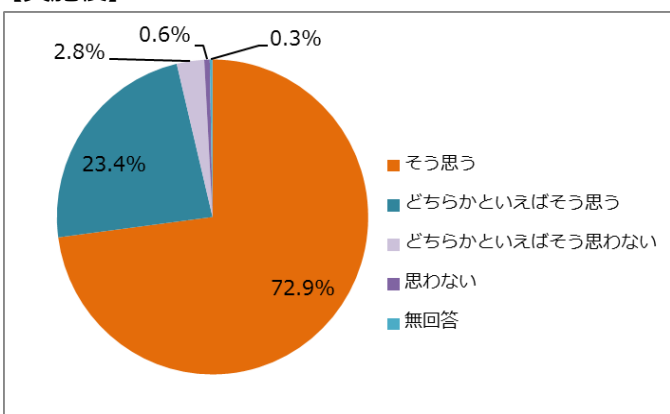


○がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う (図2)

【実施前】



【実施後】



3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

【課題】

- ①小学校用の教材の充実
- ②外部講師リストのより一層の充実
- ③モデル校以外での拡がり

【取組】

- ①小学生校の教材の充実に向け、協議会で協議するとともに、外部講師として協力いただいている方々からも意見をいただき、令和7年度中に、小学校向けの授業用スライド及びワークシート等を県教育委員会のホームページに掲載していきたい。
- ②来年度は、がん患者・経験者のリスト充実に向け、関係団体と連携を図っていきたい。
- ③外部講師を活用したがん教育の推進に向け、研修会で模擬授業を実施するだけでなく、実際に授業を行った学校の担当者に実践発表を行ってもらおう。また、研修会の開催時期や開催方法などを見直し、管理職や保健主事、保健体育科教員等にも参加してもらい、学校全体での取組を推進していく。